

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域 課題タイトル（注1）	No. 11-6-1	タイトル 千代田区の特性を踏まえた地域力の向上について	自治体名 千代田区
チームがつけたアイデア 名（注2）（公開）	ごはんルーレット ～横のつながりをつくりながら食事を楽しくしていく～		

（注1） 地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2） アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	ごはん地域づくりプロジェクト		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生		3
メンバー数（公開）	4名		
代表者（公開）	安蒜絵里紗		
メンバー（公開）	渡辺萌 横田佳恋 石山栞		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れた今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

<b style="color: red;">アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
--	---

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

- ① 地域のつながりの希薄化
- ② 飲食店の営業不振

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

【ごはんルーレット ～横のつながりをつくりながら食事を楽しくしていく～】

1. 「何を」するアイデアか

- ・千代田区の公式 LINE を活用し、地域の飲食店の情報を区民に提供する。
- ・①主催となる千代田区の大学に通う大学生がごはんルーレットに取り上げる飲食店を選んでいく段階、②ごはんルーレットシステムの実現後、それを利用した区民が実際に飲食店に足を運ぶ段階という2段階においてつながりを構築する。

2. アイデアの内容（「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するか）

①第1段階『主催の大学生が地域の人とつながりを作るステップ』

○ごはんルーレットに取り上げる飲食店を選ぶプロセスを通じて横のつながりをつくっていく。

・誰が：主催の大学生

・誰に対して：千代田区の大学生、千代田区の町内会、千代田区で働く行政職員、会社員

・どのようにして：主催の大学生が千代田区の大学生や町内会、商店街等の商工団体、行政職員などにアポイントを取り、おすすめの飲食店を20～30店舗を目安に聞きに行く（月ごとに聞く対象者を変える）。

→様々な年齢層からおすすめの飲食店を聞くことことで、年齢に縛られずに関係構築ができる&ルーレットを利用する多様な年齢層の人にも対応できる。

②第2段階『実際にごはんルーレットを活用した地域住民が飲食店の店主とつながりをつくるステップ』

○ごはんルーレットを活用し、実際に地域住民が飲食店を利用するプロセスを通じて横のつながりをつくっていく。

2-1 ご飯ルーレットを作成する段階

（既存のLINEのセグメント配信に「食」の項目を作り、そこをタップしたらルーレットが回り、ランダムに20～30店舗の飲食店が紹介される仕組みをつくる。）

・誰が：主催の大学生

・誰と協力して：千代田区の公式LINEを運営している広報課、千代田区のLINEのセグメント配信に携わったエンジニアの方々

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）



←現在の千代田区のLINE セグメント配信

2020年8月より配信スタート、現時点では在住問わず約15000人が友達登録をしている

「新型コロナウイルスワクチン接種サイト」、「ごみの分別」、「区の観光」など

様々な項目があるが、これらの項目の中に新しく「食」の 카테고리を作成していく

ルーレットを回す際に、必要なのであれば「新型コロナウイルスワクチン接種予防サイト」のように他のサイトに飛ばすようなシステムを作成していくことも考えている

食の項目を
マップすると...



ルーレットを
回すことが出来る



2—2LINEのセグメント配信にて「食」の項目を増やし、ごはんルーレットというシステムを作成したことを発信し、地域住民含めた様々な人がそのシステムを活用し、実際に飲食店に足を運ぶ段階

（まずは、LINEのセグメント配信に「食」の項目が追加されたこと、それを利用するとルーレットが回り、おすすめの飲食店が出てくるということ地域住民に広報する）

・誰が：主催の大学生、千代田区の広報課職員

・誰に対して：千代田区の住民、千代田区に通学している学生、千代田区に通勤している会社員

・どのようにして：大学生自身、インタビュー先の団体、区のホームページや区報等のSNSの利用、大学の広報、千代田区公式ホームページや広報誌を通して。また、千代田区商店街連合会、町会、観光協会とも協力。

→最終的には、ごはんルーレットを知った住民、在勤在学者等がシステムを活用し、千代田区の街を実際に歩くことで、地域のコミュニティや人、街の魅力を知ってもらうことが目的。また、これまで訪れる人が少なく、営業不信だった飲食店にも行く人が現れてくることで、飲食店の営業不振の防止にも繋がること予想される。



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

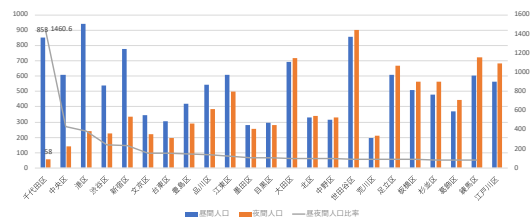
<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

○アイデアを提案する理由

1. 千代田区は地域のつながりをつくりにくい

- ・大学や企業が多くあり、昼夜間人口の差が大きい。
→千代田区の昼夜間人口比率は1460.6（平成27年度国勢調査）と最も高い。<グラフ1>参照
- 昼間民は町会や自治体の活動に参加しにくいいため、つながりを作りにくいといえる。

<グラフ1>
昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率 東京特別区比較
□□□□□□□□□□□□□□



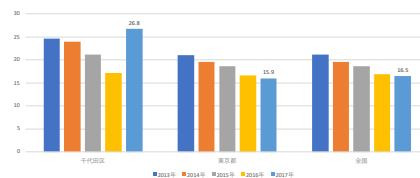
(参考データ)

- ・平成27年度国勢調査 p 13.14(閲覧日:2021年12月8日)
- (平成27年国勢調査 従業地・通学地集計 (従業地・通学地による人口・就業状態等集計) (stat.go.jp))

2. 地域コミュニティの希薄化

総務省は、2014年に出した「今後の都市部におけるコミュニティのあり方に関する研究会 報告書」において、「近年供給されたマンションはプライバシーの高い建物も多く、居住者同士、またマンションと周辺の地域と関わりが薄い傾向」があると述べていた。これを踏まえ、千代田区の住居形態について調べてみると、「第47回千代田区民世論調査（令和2年度）」において、千代田区に住む7割弱の人が「賃貸マンション」か「分譲マンション」に住んでいることが調査結果として報告されていた。また、それと同時に、千代田区に住んでいる期間については、「短期居住者」（10年未満の人々）が増加傾向にあり、「生まれてからずっと」という方は平成28年以降減少しているということも報告されていた。以上のことから、千代田区の住居形態の特徴として、地域との関わりが薄くなる傾向のあるマンションに住む人が多く、居住者の入れ替えも激しいということがあり、地域コミュニティが希薄化しているといえるのではないかと考える。実際に、同調査によると、地域の活動（町会やボランティア活動など）への参加状況は、「参加したことは無い」という人が76.5%で7割を優に超えており、「参加したことが無く、あまり関心も無い」という人が40.0%もいる。町会加入についても、「入っている」「マンションで一括して加入している」という人が47.9%で5割に届いておらず、「入っているかどうか分からない」という人が20.1%おり、町会への関心の無さも見受けられる。また千代田区における自殺死亡率は、著しく高い（<グラフ2>参照）。したがって、千代田区では地域コミュニティの希薄化という課題があり、それは命にもかかわる問題であると考えた。

<グラフ2> 千代田区の自殺死亡率は高い
（「(版権) 千代田区自殺対策計画(案)」平成30年12月「千代田区」）



～私たちの経験から～

私たちは千代田区にある上智大学に通っているにもかかわらず、大学と駅の往復の道以外はほとんど知らない。その理由の一つに、食事をほとんど構内のコンビニで済ませてしまっていることが挙げられる。大学付近にどのようなお店があるのかを知らないために、大学内で食べることを選んでしまう。また、お昼の時間である2・3限の間が55分間しかないため、友達と何を食べるか相談していると食事をする時

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

間が無くなってしまふということもある。簡単に飲食店を選択できるツールを提供することで、大学生も食事をするために出歩くことになるだろう。知らない飲食店に出向くことで、町を知るきっかけになり、災害時の避難にも役立つと考える。

（参考データ）・今後の都市部におけるコミュニティのあり方に関する研究会（2014）「今後の都市部におけるコミュニティのあり方に関する研究会 報告書」総務省（000283717.pdf (soumu.go.jp)）

・第 47 回千代田区民世論調査（令和 2 年度）<https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/kocho/chosa/yoron-47.html>

3. 千代田区には「人」と「店」と「やる気」があるが、コロナ禍で疲弊している

・多くの飲食店が存在し、コロナ禍により打撃を受けている

→飲食店数は 23 区内で第 5 位（<グラフ2> 参照）

飲食業のコロナ禍理由による貸し付け額の比率は、他業種より多い（<グラフ3> 参照）。

・商工関係団体が多く存在する。

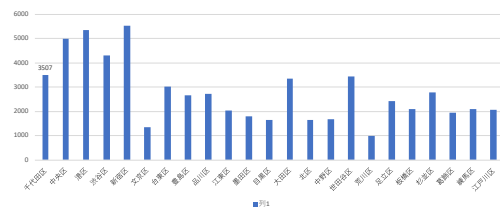
→予算特別委員会資料 6 によると、令和 2 年 7 月時点で、計 134 もの商工関係団体がある。

（参考データ）

・令和 2 年 7 月 28 日 千代田区予算特別委員会資料 6「商工関係団体一覧」

・グラフ 4 「令和 2 年度区商工融資斡旋制度による貸し付け実績」千代田区提供

<グラフ3>
飲食店数 東京特別区比較
口 総務省統計局ダッシュボードよ 2019年10月分



<グラフ4>
コロナの影響をより受けた飲食店
(令和2年度の区商工融資斡旋制度による貸し付け実績より)



～飲食店インタビューより～

①千代田区内（四ツ谷駅付近）の飲食店

Q1 コロナによる影響はあったか。→来客者の減少と時短営業の影響による時間軸の早まりという影響があった。

Q2 千代田区民との関わりが欲しいか。→欲しい

Q3「ごはんルーレット」があったら参加したいと思うか。→参加したいと思う。

Q4「ごはんルーレット」を使用したときにあったら困ることはあるか。

→予約をもらってこないのは困る。予約が来ると、席を取っておくことになるので、他のお客さんを断ることになってしまうため、予約があったのに来ないということがあると、その分売り上げが少なくなってしまう。食品ロスにもつながってしまう。



→ 1～3の地域の課題を…「ごはんルーレット」が解決する！

①区内の飲食店を知ることができる。→外で食事をするきっかけになる。

②簡単に利用できる。→食事をする場所を選ぶ手間や時間を省くことができる。

③「人を知る」、「街を知る」ことのきっかけになる。→飲食店店員等「人を知る」、飲食店までの道中で「街を知る」。

→・災害時の避難や助け合いにもつながってくる。

・取材の過程における学生と千代田区とのかかわりを通して、学生に対し、従業員や居住地としてのプレゼンスの向上も期待できる。

④ワクワク感を得られる。→ランダムな情報の取得は、検索すると自分が欲しい情報を得ることができる現代において、偶有性があり、新鮮かつどのような飲食店が出てくるのかというワクワク感を得ることができる。また、既存のプラットフォームが提供する評価や最適化を求めるものではなく、学生と地域が連携し、地域に密着した真の「口コミ」であるため、セレンディビティのある選択肢を提供することができる。

⑤高い持続可能性→フリーペーパーや飲食店紹介ウェブサイト運営と異なり、繋がりを通じたお気に入りの店の発掘に特化できる。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

千代田区の大学生のグループ

「2 (2) アイデアの理由」で述べたように、千代田区には 20 の大学が置かれており、区と連携しているのは 11 校である。その中で協力してくれる大学生を集めてごはんルーレット運営のためのプラットフォームをつくり、千代田区に通う大学生が主体となって取り組みを進めていく。商工関係団体とも協力できたらと考えている。

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

ヒト

・協力してくれる大学生 数十人（多く集まれば集まるほど良いと考えている）

＜現実的な調達方法＞

千代田区と協力し、「食」と地域コミュニティ構築に関する大学生向けイベントを開催し、そこで関心を持ってくれた大学生のプラットフォームをつくる。

→千代田区には千代田区内の 11 大学（私たちの属する上智大学も含む）との連携協定があり、この協定の枠組みを活用しプラットフォーム構築に向けた協力要請などを行うことも検討可能である。

・千代田区内の徒歩圏にキャンパスが近接する 5 大学（大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学）で「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」が設立されている。千代田区と地域産業界等とともに、近接地の立地等を生かした大学間連携と地域発展の推進を図ることを目的として、様々な連携事業を展開しており、この枠組みとの連携の可能性もある。

（千代田区 HP：「平成 30 年 3 月 28 日 区内の近接 5 大学が高等教育連携強化コンソーシアムを設立します」[千代田区ホームページ - 平成 30 年 3 月 28 日 区内の近接 5 大学が高等教育連携強化コンソーシアムを設立します \(chiyoda.lg.jp\)](#)）

（法政大学 HP：「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの取り組み」[千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの取り組み :: 法政大学 \(hosei.ac.jp\)](#)）

・飲食店の情報収集に協力してくれる地域住民や昼間区民の団体（町内会、商工団体等の地域のコミュニティ、企業など）

＜現実的な調達方法＞

千代田区と連携しているコミュニティを区に紹介してもらったり、大学生自ら街を探検してアプローチしたりする。

・その他

参加飲食店、ルーレットをまわすサイトもしくはアプリの開発者

モノ

・ルーレット

（千代田区は公式 LINE がすでにあるため、ルーレットへの誘導時に利用。）

カネ

・サイトもしくはアプリの開発費 数十万円程度

→千代田区の外郭団体である公益財団法人まちみらい千代田が実施するまちづくりファンド事業「まちづくりサポート」により資金を獲得できる可能性がある。[（まちサポ | 公益財団法人まちみらい千代田 \(mm-chiyoda.or.jp\)）](http://mm-chiyoda.or.jp)

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

<第1段階>

千代田区や観光協会、商店街連合会等が行う地域支援イベントにおいて、この取り組みの趣旨・目的の共有をし、そのうえで参加者を募る。（千代田区における関連団体のイベントや区の広報を活用。）

→イベントを開催することの予告は、千代田区公式ホームページ、さらに協定している大学向けに広報誌を作成して行う。

千代田区連携協定大学を通じた参画依頼や千代田区事業部の事業における大学の教員やゼミとのネットワークの活用（例；環境まちづくり部におけるまちづくり関連の区内大学有識者委員等）

↓

同じ関心・意思を持つ大学生が集まる。

↓

ごはんルーレット運営のための協働プラットフォーム（SNS グループ等活用）

構築や取材方法等のガイドラインを作成（ここまでに3か月）

↓

ごはんルーレットの目的や内容を共有して理解を深め、運営にあたって必要な資源や実現までのプロセスについて再度確認・検討する（1週間）

↓

団体・コミュニティへの取材開始

↓

情報が集まった飲食店への交渉

↓

協力を得ることができた飲食店をリストアップ

してデータにまとめる

（リストアップまでに3か月）

繰り返
し

<第2段階>

（1, 2か月分の情報が集まったら）

サイト・アプリの開発（3か月）

↓

リストアップした情報をサイト・アプリの開発チームに提供

↓

ルーレット作成

↓

千代田区のLINEに配置・広報（2週間）

・その他、区職員、学生、大学教員やまちづくり関係の事業者等のインフォーマルなネットワークも活用

・インスタグラム等にルーレット参加予定店舗などを紹介するなどSNSも活用

・区広報や観光協会と連携しプレスリリースを実施